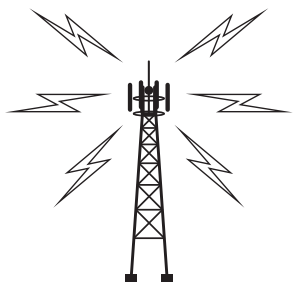


危機対応 マニュアル



大雪の場合

- 停電に備え、事前に水や食料、カセットコンロ、懐中電灯などを用意する。
- 避難に備え、事前に自動車の燃料を満タンにしたり、携帯電話の充電などをする。
- 車を運転する際は冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着し、慎重に運転することを心掛ける。
- スペアタイヤや防寒具、ラジオなどアクシデントに対応できる用具を準備する。
- 気象庁から発表される情報をよく確認しておく。
- 外出を控えたり、外出する場合は長靴をはくなど十分注意する。
- 除雪作業を行う場合は家族や近所に声をかけて2人以上で行う、はしごを固定する、命綱とヘルメットをするなど十分に安全に配慮をしたうえで行う。



地震・火災の場合

●地震の場合

- ① 落下物や割れたものから自分の身を守る。
- ② 脱出口を確保する。
- ③ 火の始末をする。
- ④ 安全な場所に避難する。
※エレベータの中にいる場合
すべての階数のボタンを押して最寄りの階で降りる。
止まらない場合は非常用呼び出しボタンを押して外部と連絡をとる。
- ⑤ 安否連絡・安否確認をとる。

●火災の場合

- ① 火災発見時
周囲に異常を知らせ、火災報知器のボタンを押す。
- ② 初期消火
消火器や屋内消火栓を使用して消火にあたる。
炎が天井まで上がっている場合は消火を止め、避難する。
- ③ 消防署への連絡
119番に電話する。
火災が発生したこと・住所・出火階などを伝える。
- ④ 避難
避難する際はハンカチなどで口を覆い、姿勢を低くして避難する。

津波の場合

津波から身を守るためには、警報が発表されたらすぐに海辺から離れ、より高く安全な場所へ避難を始めることが重要です。

～日ごろからの備え～

- 危険な場所をハザードマップや周囲の地形から確認する。
- 避難経路、避難場所を確認する。
- 実際の避難経路の確認など、訓練に参加する。

～安全を確保するための行動～

- 警報、注意報が解除されるまで気を緩めない。
- 注意報でも海岸から離れる。
- テレビやラジオから正しい情報を入手する。

津波の危険がある場所では下記の津波標識が設置されています。万が一に備え、海の近くにいるときは必ず確認しておきましょう。



台風や集中豪雨の場合

- 台風接近中は不要な外出を控え、危険な場所へは近づかない。
- 海上や海岸付近に高波を見に行くなど危険な行為はしない。
- 被害が大きくなると予想される場合には台風情報や警報をテレビや気象台ホームページからチェックする。
- 住んでいる地域で過去に被害があったかどうかを確認する。
- いざという時のために避難場所と避難経路を確認しておく。
- 非常時の持ち出し用の荷物を点検しておく。
- 避難勧告や避難指示が発表されていなくても、危険な場所にいるとき、避難に時間がかかる場合は早めに自主的に避難する。
- 避難する場合は大雨や浸水している場合があるため、慎重に行動する。
- 避難するときは電気・ガスなど火の始末や戸締りを確実に行う。
- かけ崩れや土石流などの2次災害に注意する。
- 気象庁のキキクルで危険箇所を確認する。



土砂災害の場合

- 住んでいる地域が土砂災害警戒区域かどうか確認する。(都道府県のホームページや国土交通省のハザードマップポータルサイト(URL: <https://disaportal.gsi.go.jp/>)で確認する。)
- 避難を想定して、避難場所と避難路を事前に確認しておく。

～前兆現象に注意する～

- 崖 ・ 地面のひび割れ ・ 陥没
- 小石が落ちてくる
- 地鳴り ・ 山鳴りがする
- 上記のような現象はかけ崩れや地滑り、土石流の前兆です。前兆現象に気づいたら、周囲の人に声をかけ、いち早く安全な場所に避難しましょう。
- 冬や雪の多く降る時期には雪崩による事故にも注意してください。
- 急な斜面や落石注意の標識が設置してある箇所や、吹雪や強風が伴っている場合は雪崩が発生する可能性が高く危険です。



緊急時個人情報

氏 名：
所 属：
(勤務先・学校)
部 署：
(部・課・学部・学科)
住 所：
電 話：
血 液 型：
持 病：
常 備 薬：
アレルギー：
緊急連絡先：
備 考：

※紛失しないよう管理に気を付けること

新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies <https://www.nuis.ac.jp/>

本校 新潟市西区みずき野3丁目1番1号 TEL.025-239-3111
新潟中央キャンパス 新潟市中央区上大川前通7番町1169番地 TEL.025-227-7111

2023年7月
開学30周年記念事業



弾道ミサイル(Jアラート発令時)の場合

- 屋外にいる場合
近くのできるだけ頑丈な建物または地下に避難する。
- 近くに建物や地下施設がない場合
物陰に身を隠すか、地面に身を伏せて頭を守る。
- 屋内にいる場合
できるだけ窓から離れるか、地下室や窓のない部屋へ移動する。

近くにミサイルが落下した場合

- 屋外にいる場合
口と鼻をハンカチなどで覆い、現場から離れ、気密性の高い屋内又は屋外へ避難する。
- 屋内にいる場合
換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。
詳しくは総務省消防庁のホームページをご参照ください。

国民保護法について

国民保護法とは、正式には「武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律」といい、武力攻撃事態等において、国民の生命、身体及び財産の保護を図ることを目的とした法律のこと。住民の避難に関する措置や避難住民等の救援に関する措置、武力攻撃災害への対処に関する措置について具体的な内容を定めている。
詳しくは国民保護ポータルサイトをご参照ください。
新潟県のホームページにも国民保護法について説明しているページや防災に役立つ情報が掲載されています。こちらも参考に危機管理の意識を高めて、災害に備えましょう。
各サイトは本学ホームページ防災リンク集を参照してください。

家族との安否確認

○家族が離ればなれで被災したときを考えて、お互いの安否の確認手段を考えておきましょう。

- 自分の身の安全が確保できたら、次は家族の安否を確認しましょう。
- 被災地では、連絡手段が限られていますので、公衆電話等から利用できるNTTの「災害伝言ダイヤル171」携帯電話の「災害用伝言板」などのサービス・LINEなどSNS・メールなど複数の手段を利用しましょう。

NTT災害伝言サービス

○災害発生時、通信・電話数の増加でつながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。

電話で連絡・確認する場合	インターネットで連絡・確認する場合
ご利用方法	ご利用方法
171にダイヤル	https://www.web171.jp
音声ガイドによるご案内	へアクセス 又は「web171」と検索
録音は1 再生は2	
音声ガイドによるご案内	
被災地の方はご自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。携帯電話等の電話番号でも登録可能です。	伝言を登録する被災地の方などの電話番号を入力 被災地の電話番号を市外局番から入力 携帯電話等の電話番号でも登録可能です。
市外局番 市内局番 お客様番号 0	説明に従い、登録/確認
音声ガイドによるご案内 ガイドに従い、録音(再生)	※確認時に他社の伝言板に伝言がある場合はリンクが表示されます。

(URL:https://www.ntt-west.co.jp/dengon/pdf/171manual.pdfより引用)

「LINE安否確認」で安否を知らせる/知る

LINEでは、震度6以上などの大規模な災害が起こった際に、ホームタブに赤枠の「LINE安否確認」が出現します。

タップするだけで友だちに状況と共有することができます。
※名前やステータスメッセージを活用する

自分の名前とともに表示される短いメッセージ「ステータスメッセージ」も、LINEで友だちになっている人全員に見てもらえるので、緊急時に「私は無事です」「〇〇に避難中」などと入力することで、自分の状況を伝えることができます。「LINE安否確認」が出現しない場合は「ステータスメッセージ」を活用してください。

他にもLINEでは自分の地域の防災速報をLINE上で受け取れたり、自分の居場所を位置情報としてトークに送信することができます。詳細は以下のURLを確認してください
(LINE Corporation「LINEみんなの使い方ガイド」より抜粋)
URL:https://guide.line.me/ja/features-and-columns/emergency-tips.html

各携帯会社の災害時伝言板サービス

○災害発生時、自分の状況を登録し、国内外問わず確認できる各社の災害用伝言板サービスです。

docomo	au
http://dengon.docomo.ne.jp/	https://dengon.ezweb.ne.jp/
Softbank	楽天モバイル
http://dengon.softbank.ne.jp/	https://public-safety.mobile.rakuten.co.jp/?lang=ja

公衆電話の使い方

受話器を上げ、硬貨又はテレホンカードを投入し、電話番号をダイヤルします。
110や119は無料。受話器を上げ、そのまま電話番号を押します。
赤色の緊急通話ボタンがある場合は、押した後110番等を押します。

家庭での防災会議

災害時に家族が慌てず行動できるよう、日頃から話し合い、情報を共有しておきましょう。
災害はいつ起こるかかわからないため、時間帯や誰が在宅しているかなど様々なケースを想定し話し合っておきましょう。話し合いでは、想定したケース毎に分担を決めるほか、高齢者や乳幼児など家族構成も考慮し次のようなことも相談しておきましょう。

- 家の中でどこが一番安全か
- 避難場所、避難路はどこか
- 非常持出袋はどこに置いてあるか

新潟国際情報大学 防災リンク集

新潟国際情報大学では、ホームページで防災時に役立つサイトへのリンク集を公開しています。この危機対応マニュアル、マニュアルで紹介したサイト、本学学生向け安否確認フォームへの回答方法などの情報を公開しています。



https://www.nuis.ac.jp/bousai-link/

日常的な注意事項

車を運転する際の注意事項

①夜間の運転

- 道路右側から横断してくる歩行者に注意。
- 無灯火で走行している自転車に注意。
- 右折・左折時の死角に注意。



②冬期間の運転

- 十分な車間距離と早めのブレーキ。
- 交差点付近・日陰・橋の上が、滑りやすくなっている。
- カーブの手前では十分に減速する。
- 急発進・急ハンドル・急ブレーキをしない。

●歩行者に対する注意

- 除雪した雪のため歩行者が車道を歩いていることがある。
- 凍結した道路で歩行者が突然転倒することがある。
- 吹雪のため歩行者が周りを見ないで歩くことがある。

●視界が悪くなる

- フロントガラス・リアウインドウ・サイドミラーへの雪の付着が死角を悪化させる。

歩行の注意事項

①夜間での歩行

- 白っぽい服装を心がけるとともに夜光反射材を着用する。
- 「酒酔い歩行」による交通事故に注意。
- 深夜は1人で行動しない。

②冬期間での歩行

- 路面が凍結しやすい場所に注意。
- 横断歩道、車の出入りのある歩道、建物の出入り口、バスやタクシーの乗降場所など。
- 除雪された雪による死角に注意。
- 車道からは死角になるため歩行者の発見が遅れがちになる。
- やむを得ず車道を歩く場合に前後の車に注意するとともに転倒にも注意。

●転びにくい歩き方

- 小さな歩幅で歩く。
- 靴の裏全体をつけて歩く。「凍結路」は「すり足」のように、「雪道」は足裏全体を付けて小幅で

- 除雪された雪で死角ができて歩行者などの発見が遅れがちになる。
- 一時停止線やセンターラインなどの道路標識が見えなくなる。

自転車運転する際の注意事項

①普段の運転

- 自転車も道路交通法の適用を受けることを認識する。(酒酔い運転や信号無視など)
- 自転車は車道が原則。左側通行。
- ヘルメット着用。
- 自転車損害賠償責任保険等への加入が義務化。(新潟県)
- 夜間は必ずライトを点灯。
- 歩行者に配慮した運転。
- 二人乗りや2台以上の並進、傘さし運転はしない。

②冬期間の運転

- 極力冬期間(特に降雪時、凍結時)は自転車に乗らない。

不審者への対応

①暴行・強奪事件に遭った(遭いそうになった)場合

- まず、大声を発し、助けを求めろ。
- すぐに110番通報する。
- 周辺のコンビニまたは民家等に助けを求めろ。
- 犯人の人相等特徴や、車を使用している場合は車の型式・ナンバー等を確認する。

②被害に遭わないために

- 夜間の外出は極力自粛する。
- やむを得ず外出する場合は、できるだけ複数人で行動する。

